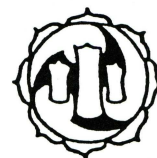
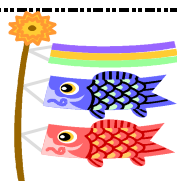


みやま



コロナウィルスの流行により非日常な生活を余儀なくされております。非常事態宣言の延長を受け臨時休業期間が延長されました。ご家庭におかれましては多大なご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。学校も休業中の家庭学習を支援できるよう様々な工夫をこらして各家庭へのポストイン、並びに回収、成績物の評価に新たな工夫をしながら学校再開に向けて取り組んでおります。何よりも子供たちの命が大切であり、その上に豊かな学びを作り上げたいと考えています。顔を合わせることも、声を聞くことも難しい日々が続いておりますが、学校が再開できた時のための十分な準備期間と考え行動して欲しいと願っています。こんな時でも「なりたい自分になる」ことを考えて家庭での時間を過ごして欲しいと願っています。引き続き家庭での学習への支援をよろしくお願ひします。今回のことが将来きっと良い教訓になるようにしていきたいですね。



本当の家庭学習を



宿題という言葉があります。学校で出だされる課題を家でやって、翌日提出する。私も小学校時代はそのようにして過ごしてきました。そこには学校での学習の復習や予習という意味があります。しかし、やる側の子供にはやらされている学習という思いは払拭できません。それをすることによって学習が定着したり、理解が深まってきたことは確かですが、新学習指導要領が狙う主体的な学びにはなりにくい面も感じます。そこで「復習と予習が出来る子供を育てる」

ことを目指したいと考えます。これだけ長い時間家庭にいることが未だかつてありませんでした。そこで、この時間は貴重な実験が出来る時間と考え、家庭での学習の進め方を考えてみました。とはいえ、登校できない状況では昨年度以前のものは出来ても復習は難しい状況です。今回課題のプリントをお配りしていますが、そこには今までのような漢字・計算といった技能を習得するものばかりではなく、教科書を読み進めながら自分で考えていくように仕向けています。予習する習慣が身につくと、授業に疑問や課題を持って臨むことが出来ます。「論語」には必ず、弟子が問いかける。それに師匠である孔子が答えるという問答が書かれています。古来から学ぶと言うことは自分が疑問に思うものを追求することで学習内容が深まるものであったようです。子供たちが疑問を持ち寄りみんなで解決していく学習は、これまでのように教えられることを記憶していく学習とは違ったものになります。社会へ出て生きていく限りは学ぶことが必要となります。自分で課題をつくり、その解決に向けて資料（教科書）を用いて答えを見付けていく。そんな学習サイクルが出来ればいくつになっても学ぶことが出来る人になれるように思います。家庭で予習する習慣を付ける1ヶ月になることを期待しています。